

■寄せられた声

戦争法案

「戦争につながる気がする。安倍首相は信用できない」（都内の15歳男子中学生）

「強行採決でなくもっと話し合うべき。地元では『安倍さんは山口の恥』って言われてる」（山口県の16歳女子高生）「先輩が陸上自衛隊にいる。その人が巻き込まれるのはいやだ」（ゆうやさん・千葉県の18歳男子高生）

消費税10%への引き上げ

「百均で105円が108円になった。マジ大変」（竹内さん・埼玉県の15歳女子高生）「8%の今でもつらい」（こーちゃん・東京都昭島市の15歳男子高生）

「消費税は、来年大学だから学費のことが心配」（ゆきなさん・和歌山県海南市17歳女子高生）

ブラック企業・ブラックバイトの規制

「正社員じゃないので、勤め先が非正規を正規に雇うことがあるのか気になる」（龍也さん・愛知県豊田市の19歳社会人）

「労働法があるのに守らないおとな、意味がわからない。法律を守って」（シムシム・栃木県の18歳男性）

「友達が困っている。バイト先で要求を聞いてもらえない暴力をふるわれた。辞めたいと言ったらさらに暴力」（れん・東京都の17歳女子高生）

学費の値下げ・無償化

「大学はお金がかかるのでどうにかしてもらいたい」（瑚南さん・東京都小笠原村の16歳女子高生）

沖縄・在日米軍基地の縮小・撤去

「修学旅行で沖縄に行って基地や周辺の苦しむ住民の実態に衝撃を受けた」（かすみさん・埼玉県草加市の18歳女子高生）

「沖縄出身。米軍基地の問題は本当に沖縄の人を苦しめている。辺野古の新基地建設自体、自然破壊されるし、軍用地になったところがどう扱われるのかわからないし、怖い。戦争法案と沖縄基地問題も強くつながっていると思う」（ヨウさん・東京都品川区の20歳社会人男性）

国会前などの若者デモ

「戦争法案に反対。学校の友達同士でツイートしてみんなで若者のデモを応援しています」（東京都の17歳女子高生）

就職難の解決

「高卒で（就職先を）探すのに苦労した。最近は面白くなってきたけれど、やりたいと思う仕事が見つからない」（モリさん・茨城県龍ヶ崎市の19歳男性工場勤務）

16項目から複数選択。ほかには、いじめをなくす、年金・介護など社会保障の強化、震災復興・災害対策、貧困・格差の解消、受験競争の解消、ヘイトスピーチの規制、原発廃止やエネルギー問題、その他（保育園を増やす、介護職の給料上げて、IS問題）の回答がありました。

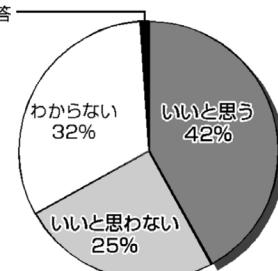


若者100人に聞きました

来年7月の参院選から「18歳選挙権」が実現します。当の若者たちはどう受け止めているのか。大阪・心斎橋（19日）と東京・原宿（22日）の2カ所で、本紙若手記者が、新しく選挙権を得る世代を中心（12歳から23歳まで）の101人に聞きました。

意見を反映できる ■ 戦争法案に关心

グラフ1 18歳に引き下げることを
未回答 1%



引き下げるについては「知らない」「今知った」という人も含め、42%が「いいと思う」と回答していました。（グラフ1）

政治学びたい

「早く政治に関わられるから政治について学ぼうと思う」（和歌山市の17歳女子高生）など、自分や若い人の意見を政治に反映させられる」と積極的に受け止めていることがわかります。

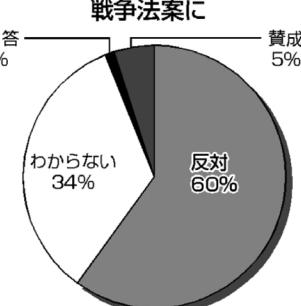
一方で「わからない」（32割が「知っている」と答えた）と、「いいと思わない」（25%）、「いいと思わない」（26%）も少なくありません。

「18歳はまだ子ども」「有権者だけ増えても変わらない」というものです。「政治に詳しくないのに、参加していいのかな」という不安がある」（富山県の18歳女

子高生）のような戸惑いは、主権者としての教育の充実が欠かせないことを示しています。

新たに選挙権を得る人に

グラフ2 戰争法案に
未回答 1%



「将来大切な人が戦争に行くことになったら、新たに選挙権を得る者も含め64%が「投票の引き下げに否定的」と、積極的に行使したい」と、積極的に行使したい姿勢がうかがえます。

「関心のある問題や政治でも参加すべきだ」など、「権利を得るからには考えたい」と、積極的に行使したい姿勢がうかがえます。

「戦争法案」です。法案についても60%が「反対」「わからない」はなく、「賛成」は5%でした。（グラフ2）



一緒に声上げよう

どう生かす？ 18歳選挙権



ぶ機会はとても少ない、そもそも、政治の話はタブーといった社会的風潮もあります。そうではなく、もっと自分たちの問題として学校や社会で学び、気軽に話して会える環境を作ついくことが必要です。

来年7月の参院大阪選挙区の日本共産党候補、わたなべ結さん（34歳）の話

アンケート結果を見ると、若い人たちが積極的に参加していると、自分たちの声で政治は動かせる、政治に参加しようという実感が広がります。同時に、「わからない」「まだ早い」という意見もありました。判断できる力がないのではないか、「まだ早い」という意見もありました。判断できる環境を普段からつくることが必要ではないかと思います。学校教育の場で政治や社会のことをきちんと学んで、自分たちの問題と捉えていることがわかります。

切実な願いを実現し、平和で暮らしやすい日本と社会をつくるために、一緒に声を上げていきましょう。

ト先がブラックで心配になります。に対する強い拒否も際立っています。「いいじめをなくす」「ブラック企業・ブラックバイトの規制」「震災対策・災害対策」「学費値下げ・無償化」にも高い関心が示されています。（「いいじめをなくす」の身近な問題に悩み、心を寄せている様子がわかりました。）（まどめ・北野ひろみ）

ト先がブラックで心配になります。に対する強い拒否も際立っています。「いいじめをなくす」「ブラック企業・ブラックバイトの規制」「震災対策・災害対策」「学費値下げ・無償化」にも高い関心が示されています。（「いいじめをなくす」の身近な問題に悩み、心を寄せている様子がわかりました。）（まどめ・北野ひろみ）

党創立以来求める

発端には改憲の狙いがあ

ることを指摘しつつも、

国会討論の中で日本共

産党は、今回の法改正の

いのかも」反対のバイ

ながるとして賛成しまし

れることがあります。議

会制民主主義の発展につ

かれてきました。今回の

法改正で約240万人が

新たに有権者に加わりま

す。

レイアウト 大串昌義